



*Asa & Mitya*

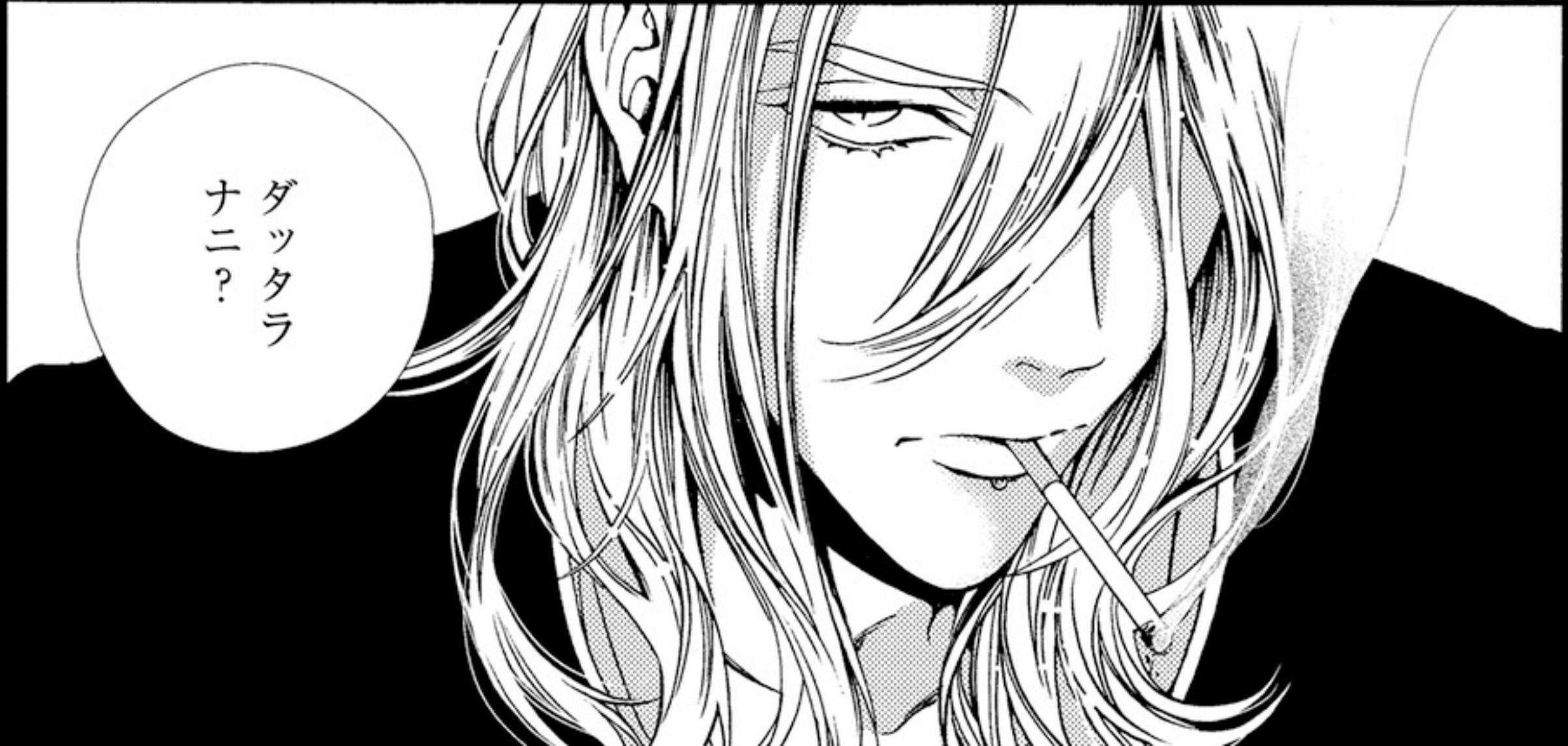
第1話

あの頃ボクは  
悪い噂が  
絶えなくて

その噂と  
派手な見た目に  
釣られて  
寄つてくる奴が  
多かった  
男女問わず



だから寝起きで誰かが  
膝の上にいるのも  
初めてじゃなかつたのに



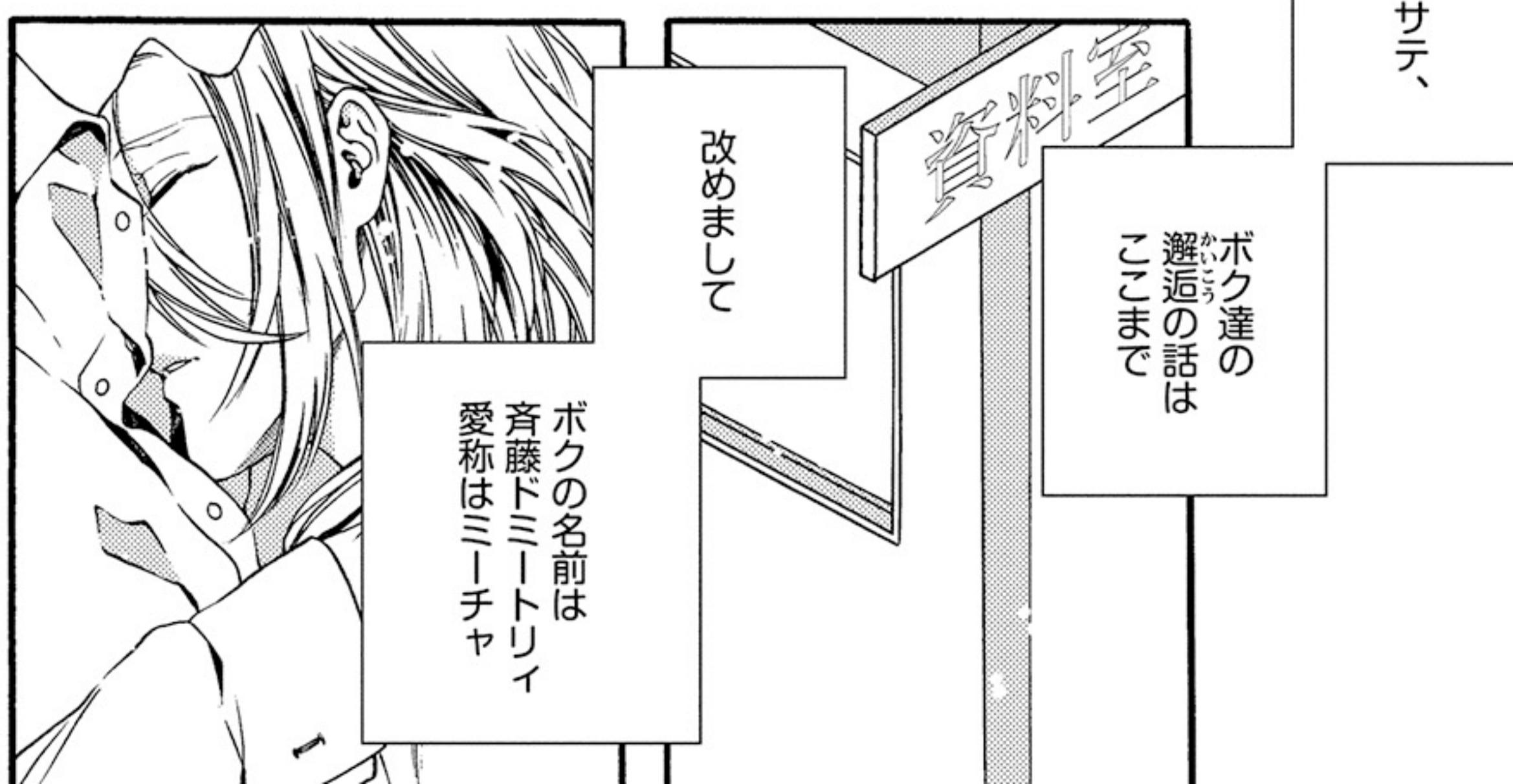
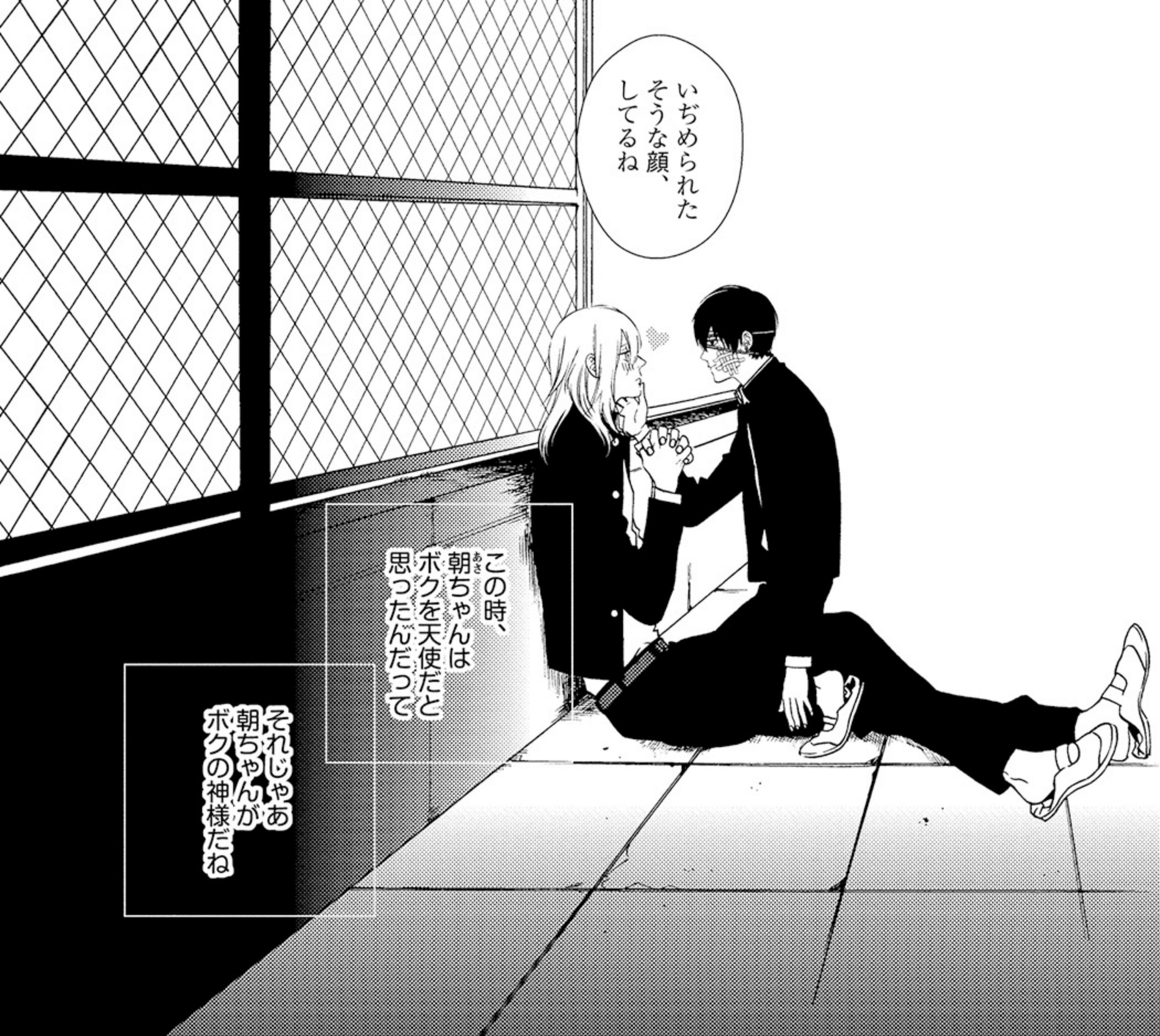


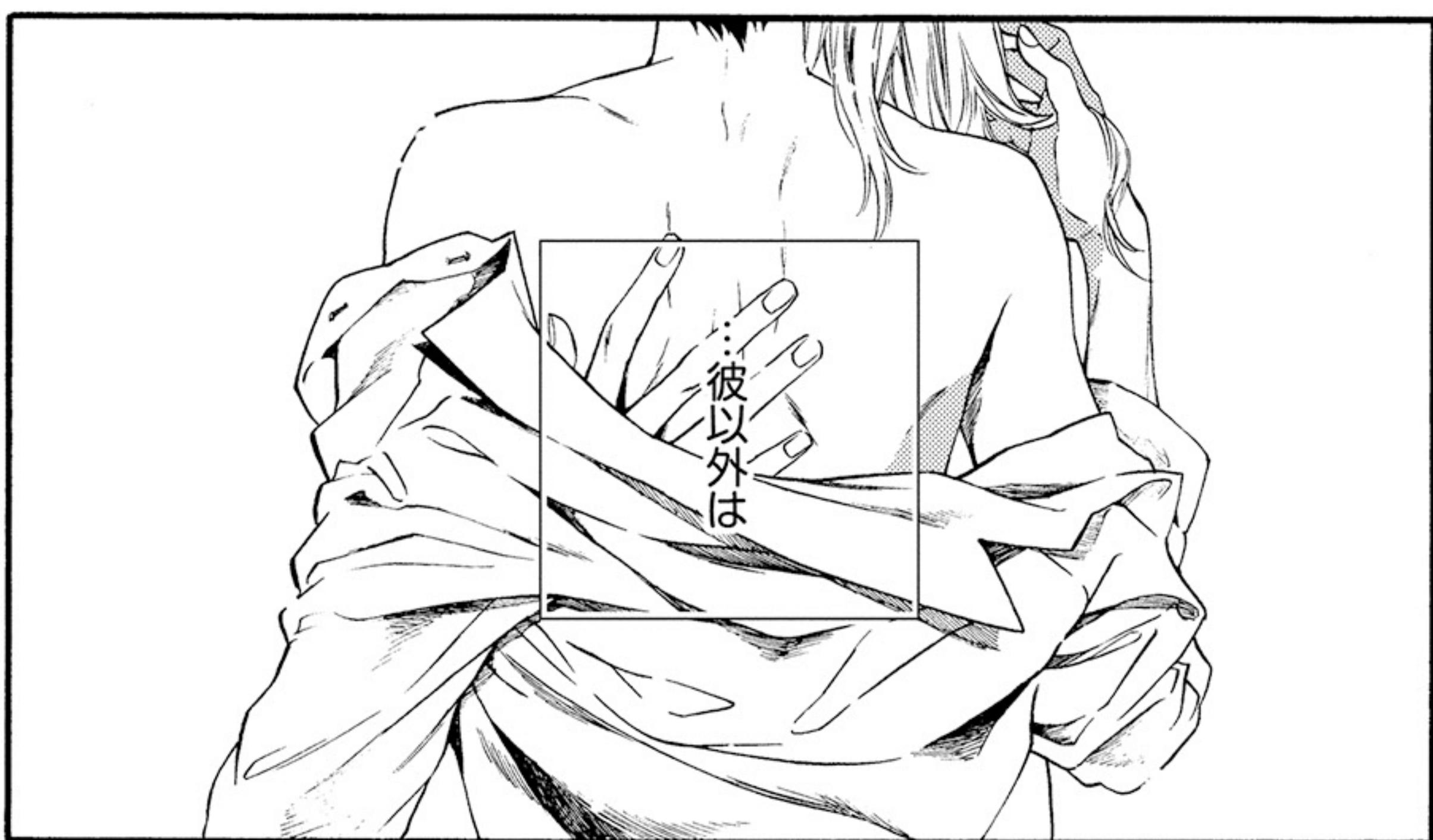
冷たい手に 目が覚めるようだった



ボクは  
吸い込まれて  
しまつたのです

そして見上げた  
暗い影の中の  
キミに





ああ、

ボクは今まさに  
雷撃のナ力にいる

いたいよ  
朝ちゃん…

# ボクの雷

いかずち

…ミーちゃん

ボクのしあわせ

ウソ、  
痛くない  
でしょ

ね？

この甘く痺れる声で  
ミーちゃんとだけが  
呼ばれることが多い

彼は  
三森朝彦クン

…いた、  
くない…

ボクの恋人

七  
ゆふ

あ、抜け  
ちやつた…

…ねえ次  
あれシよーよ  
昨日見たやつ…

えッ…?  
無理だよあれ  
身体痛く  
なつちやうよ

ソファー  
狭いし、  
落ちちやう  
つて…!

えー  
だいじよぶ  
だいじよぶ…

「ラストゴム  
でした…」

…あー  
破けて  
るし…





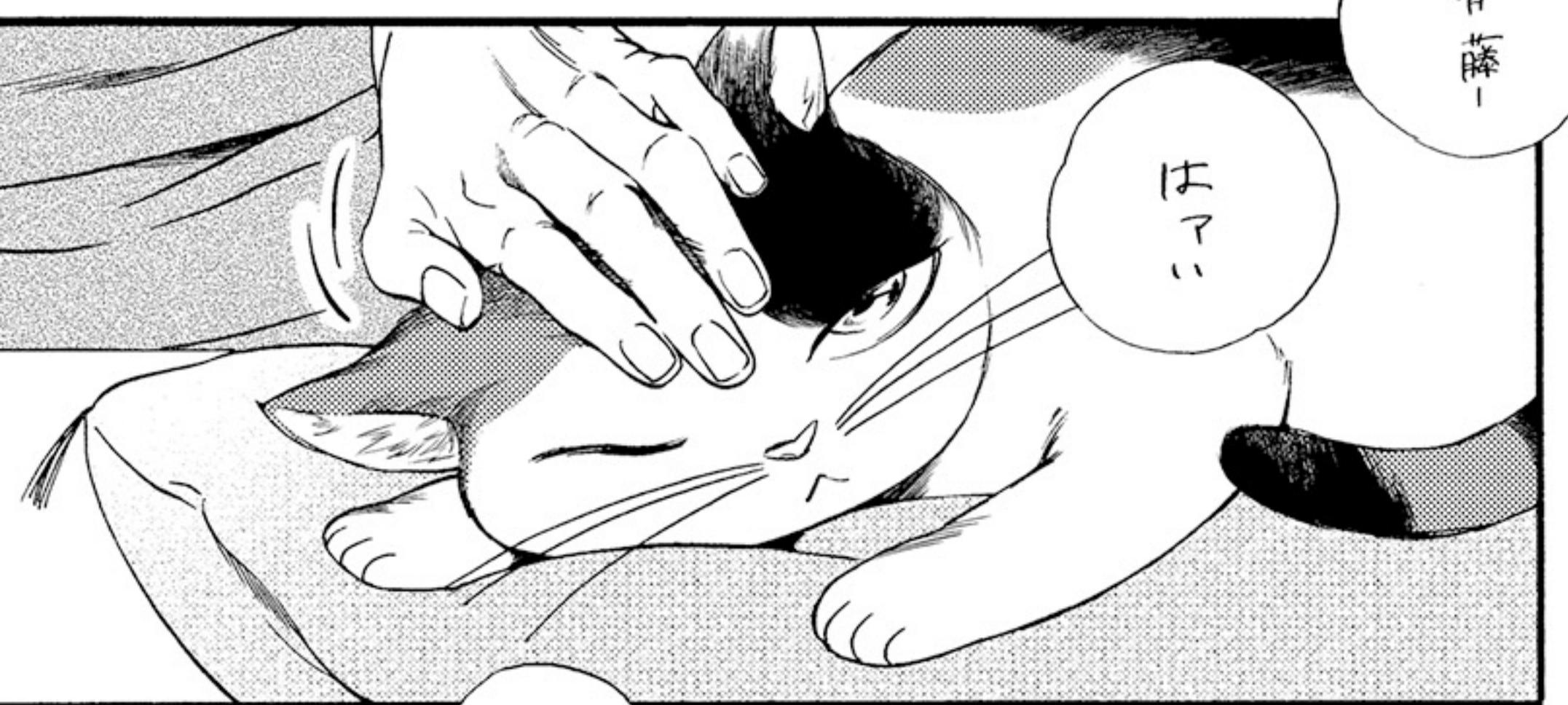
トコトコトコトコト

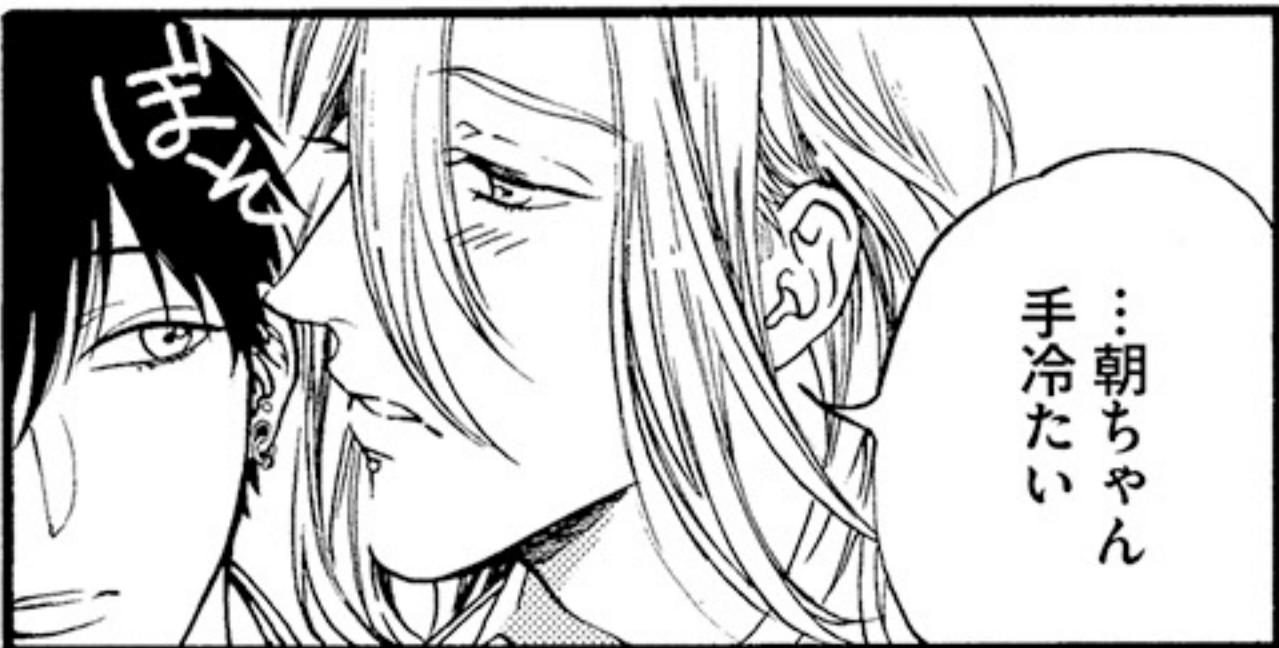


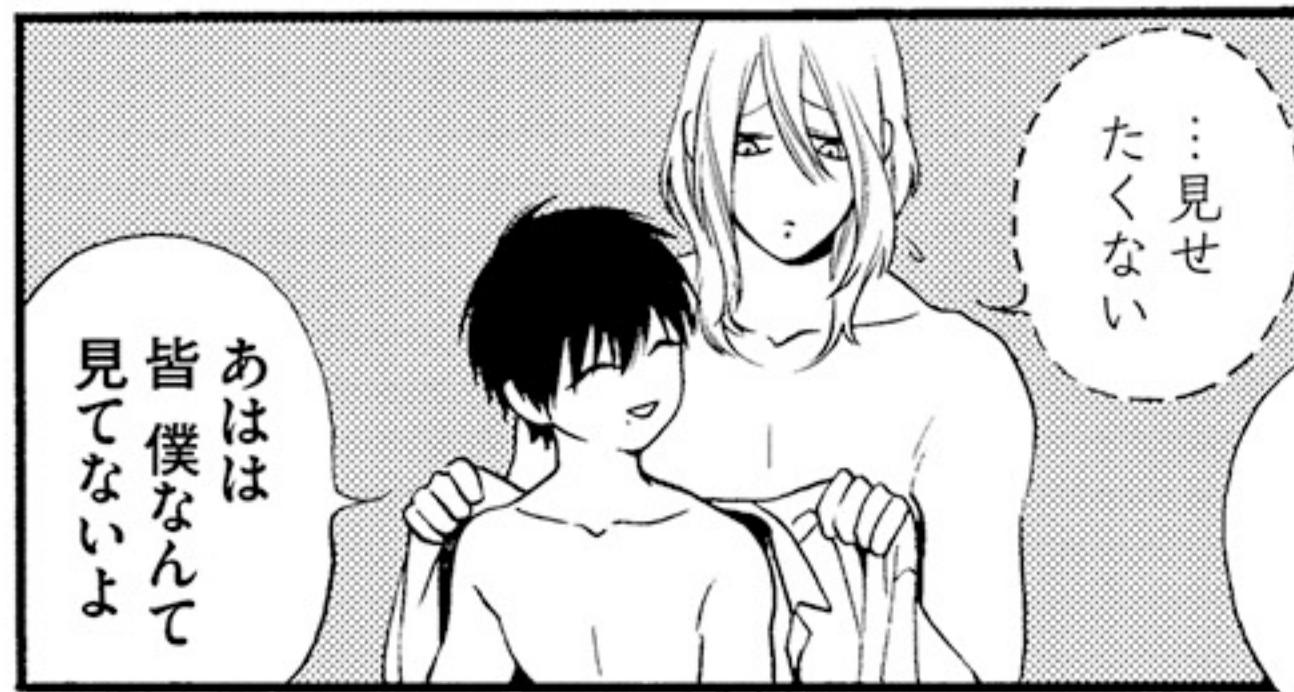
それが堪らなく  
キモチイイボク



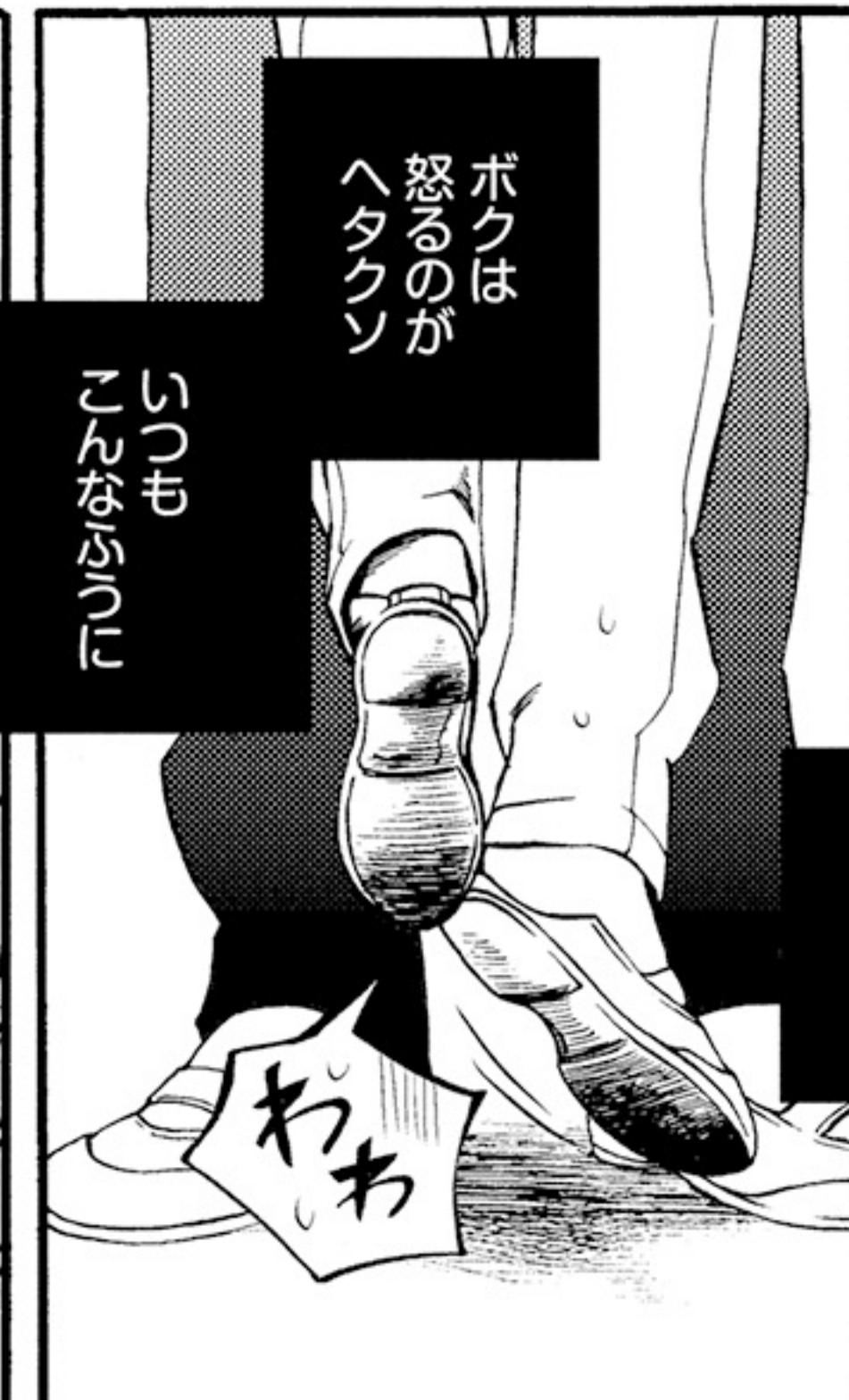
小林



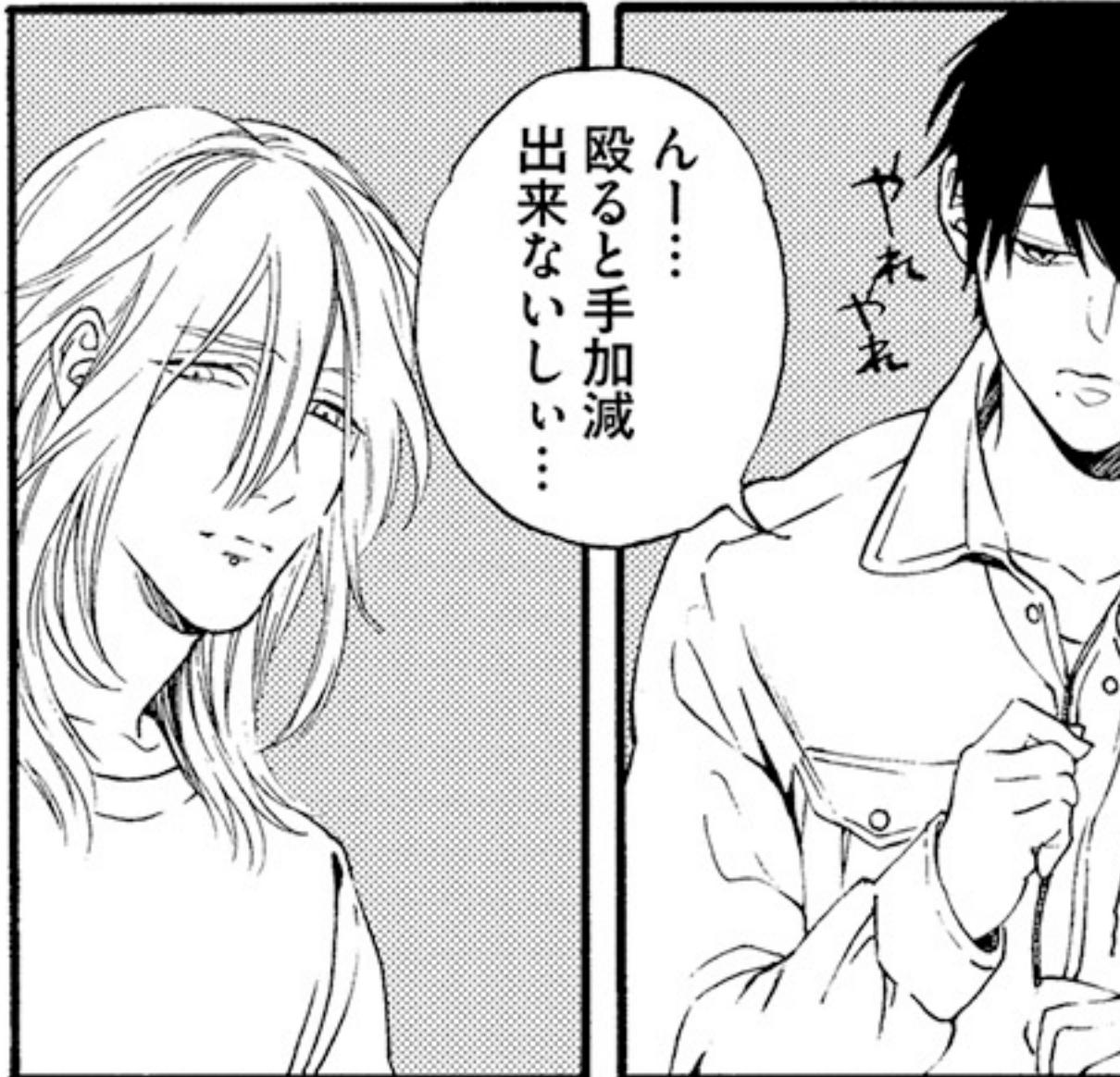












前みたいに殴つて、蹴つて、  
それからー！





